

クレジット:

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義 2016 中島隆博

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



学術俯瞰講義
「現代日本を考える」

東アジアにおける概念の循環 方法としての日本そして儒教(2)

2016年10月31日

中島隆博(東洋文化研究所)

概要

この二回の講義では、東アジアにおける概念の循環を考えてみる。

具体的には、第一講において、「方法としての日本」について考えてみる。竹内好がかつて「方法としてのアジア」という概念を提唱したが、それが現在の中国において、「方法としての中国」として変奏されて用いられ、いま熱い議論になっている中国的な普遍を考えるための重要な概念となっている。現代中国でのこうした議論を踏まえた上で、はたして「方法としての日本」は普遍を考える際になお意味のある概念であるのかを考えたい。

第二講においては、「儒教」を考える。今日日本が儒教の国であると考えている人は必ずしも多くないだろう。しかし、『論語』に関する書物は依然としてよく売れていることを考えると、事はそれほど単純ではなさそうである。近代における一世紀を越えた抑圧の後、中国では儒教が復興している。この奇妙な交叉の中で、わたしたちはいったい如何なる概念として儒教を考えているのだろうか。現代日本が問うことをやめてしまった問いを、現代中国を鏡としながらともに考えてみたい。

1.『論語』ブーム？

日経BP社
『日経おとなのOFF』
2011年10月号
「special1 論語入門」

[http://trendy.nikkeibp.co.jp/
off/1110.html](http://trendy.nikkeibp.co.jp/off/1110.html)

2011年10月 日経BP社

青土社
『現代思想』
2014年3月号
「特集:いまなぜ儒教か」

[http://www.seidosha.co.jp/b
ook/index.php?id=2321](http://www.seidosha.co.jp/book/index.php?id=2321)

2014年3月 青土社

齋藤孝
『小学生のための論語』
PHP研究所、2010年

<https://www.php.co.jp/books/detail.php?isbn=978-4-569-77812-9>

2010年5月 PHP

安岡定子
『こども論語塾』
明治書院、2008年

<http://www.meijishoin.co.jp/book/b98091.html>

2008年2月 明治書院

教養？修身？修養？

著作権等の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

日経BP社『日経おとなのOFF』2011年10月号
「special1 論語入門」
<http://trendy.nikkeibp.co.jp/off/1110.html>
pp.10-11見開きページ画像

「「論語」を、学生の頃に習って以来読んでいないとしたら、非常にもったいない。論語とは、人生経験を積んできたおとなこそ、心を深く揺さぶられる書物だからだ。孔子は決して、手の届かない聖人ではない。混沌とした春秋時代に、困難や葛藤にもがきながらも、自らの生き方を貫き通した。その教えは、現代を生き抜くための具体的な知恵として今なお、私たちを支えている。」(p.10より引用)

「日本人がもともと持っている感覚」

著作権等の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

『AERA』（朝日新聞出版）2011年10月10日号
http://publications.asahi.com/ecs/detail/?item_id=13075

「日中そろって「論語ブーム」」
pp.50-51見開きページ画像

「論語指導士」

およそ2500年もの長い間、世界中の人々に読み継がれてきた『論語』。

特に日本では、『論語』に書かれた思いやりの心、ルールやマナーの意味、孝行、正義など心と行動の在り方が「しつけ」「道徳」として教え継がれてきました。

『論語』は不変の人間教科書です。人が社会でどう生きていくべきか、人としての基本を語っています。

フジテレビKIDSは『論語』研究の第一人者 大阪大学名誉教授 加地伸行先生、東京大学教授 小島毅先生監修の下、この『論語』を、塾、ワークショップ、番組、アニメなど様々な形の教育コンテンツとして制作し、お届けしています。

これらコンテンツは両先生に開発していただいた、幼児・児童にもよくわかる『論語』学習体系「加地・小島式論語カリキュラム」を基にしております。

「フジテレビKIDSの論語プログラム（<http://p-kies.net/rongo>）」より。

著作権等の都合により、ここに挿入されていた画像を削除しました。

フジテレビKIDSの論語プログラム
スーパーヒーローアニメ「ロンゴ
マックス」のキャラクター、
ロンゴマックスの画像
<http://p-kies.net/rongo/#r7>

スーパーヒーロー
「ロンゴマックス」

曲阜 孔子六芸城

- 山東省曲阜にて1993年より
- 六芸「礼、楽、射、御、書、数」と孔子の生涯

著作権等の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

中国の観光サイト「蚂蜂窝自由行」より、
孔子六芸城の写真
<http://www.mafengwo.cn/photo/poi/29032.html>

国際孔子文化節 於曲阜 (2007年9月27日～28日)

- 福田康夫首相
- 「改革開放支援から「和諧社会」実現のための協力に軸足を移していきたい」(福田総理訪中スピーチ『共に未来を創ろう』(平成19年12月28日於:北京大学)より)。

著作権等の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

中国曲阜のウェブサイトの記事
「日本首相福田康夫来曲参观访问」
(2008年1月1日掲載)
<http://www.qufu.gov.cn/show.asp?id=1003>

3枚目の写真
「日本首相福田康夫在曲阜参观访问期间
现场题写“温故创新”」

前夜祭



祭孔大典 第一部

- 有朋自遠方來、不亦樂乎(学而)
- 四海之內皆兄弟也(顏淵)
- 禮之用、和為貴(学而)
- 德不孤、必有隣(里仁)



循環する概念系

- 儒学は孔子の学説にもとづき、歴代の儒家の宗師の思想を主体として形成された学術体系と価値観念である。その中で、**仁**は儒学の核心であり、**和**は儒学の宗旨であり、**礼**は儒学の根本であり、**信**は儒学の血脈である。
-
- 儒学は「和して同ぜず」(『論語』子路)、「和は実に物を生じ」(『国語』)という文化理念を掲げ、個体の差異を尊重した上で、相互に融合し、人と人・人と社会の和諧発展を実現する。
- 儒学は師を尊び、道を重んじ、老を敬い、幼を愛し、正心誠意と修身立志を尊び、**国家と民族のために公であり私を忘れ**、名利に恬淡とした高尚を奨励する。

教育ニ関スル勅語(1890年)

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ
我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世世厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國
體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス
爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ
及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ
開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ
皇運ヲ扶翼スヘシ
是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ
足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所
之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ
咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日
御名御璽

国民儒教 井上哲次郎

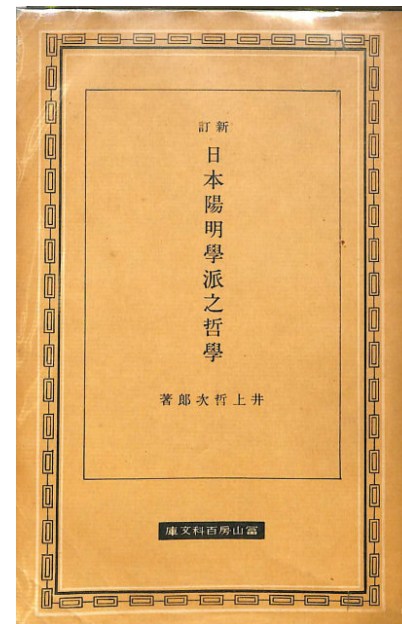
井上哲次郎 (1856-1944)

『教育勅語衍義』1891

1900



From Wikimedia Commons (ref. 2016/10/31)
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:INOUE_Tetsujiro.jpg



幕末と陽明学の接続

- 若し我邦に於ける国民的道德心のいかんを知らんと欲せば、其国民の心性を鎔鑄陶冶し来たれる徳教の精神を領悟するを要す。即ち此書叙述する所の日本陽明学派の哲学の如き、豈に此に資する所なしとせんや。若し又眼前の事実就いて我國民的道德心の顯現を証せんとすれば、支那に於ける我軍隊の行動を見よ。其聯合軍中にありて、特に異彩を放つものあるは、何ぞや。掠奪を恣にせず、暴悪を逞ふせず、肅として軍紀を守りて、敢て私欲の爲めに動かざるもの、我國民的道德心の顯現にあらずして、何ぞや。(井上哲次郎『日本陽明学派之哲学』富山房、1900年、2-3頁、旧字体は新字体に変換)

幕末と陽明学の接続

- 日清戦争後、清朝政府は明治維新に倣った中国の近代化政策を採り、以後多くの留学生が日本に渡った。また、亡命政治家、革命家も日本を活動の拠点とした。梁啓超、章炳麟、孫文もまたその一人であった。彼等は当時の日本で流行していた陽明学を「発見」し、陽明学は明治維新の原動力であったとの論と共に中国に持ち帰った。（荻生茂博『近代・アジア・陽明学』ぺりかん社、2008年、400頁）

中江兆民 (1947-1901)



From Wikimedia Commons (ref. 2016/10/31)
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Nakae_Chomin_2.JPG

- 余明治の社会において常に甚だ不満なり、故に筆を取れば筆を以て攻撃し、口を開けば詬罵を以てこれを迎ふ。今や喉頭この悪腫を獲て医治なく、手を拱して終焉を待つ、あるいは社会の罰を蒙りて爾るにはあらざる耶、呵々。(中江兆民『一年有半』(『一年有半・続一年有半』岩波文庫、1995年、76頁))

日本に哲学なし

- わが日本古より今に至るまで哲学なし。[中略]近日は加藤某[弘之]、井上某[哲次郎]、自ら標榜して哲學家と為し、世人もまたあるいはこれを許すといへども、その実は己れが学習せし所の泰西某々の論説をそのままに輸入し、[中略]哲學者と称するに足らず。(中江兆民『一年有半』(『一年有半・続一年有半』岩波文庫、1995年、31頁))

大阪陽明学会と「民衆的基盤性」

- 大阪陽明学会は石崎東国(1873～1931年)によって1907年6月に洗心洞[大塩中斎(平八郎)の開いた私塾の名]学会として設立され、1908年12月に大阪陽明学会と改称された。『陽明』が機関誌であり、1910年7月に刊行され、1919年に『陽明主義』に改題された。
- 1911年12月5日付けの『陽明』(第二卷第六号)は中江兆民の記念号であり、表紙には中江兆民の写真とともに『民約訳解』第六章が掲載され、こう述べられている。



- 五十五年間を社会人道の為に能く戦ひたる明治の陽明学者兆民中江篤介先生没して茲に満十年なり。本年十二月十三日は実に其忌辰に当る。吾党は今日の社会に立て特に先生の風格に憧憬たらざるを得ず。茲に此の紀念号を作る。(石崎東国(大阪陽明学会)『陽明』第二卷第六号、1911年、1頁、旧字体は新字体に変換)
- 同学会[大阪陽明学会]は発足当初から井上哲次郎から「表に致良知を標榜、陰に社会主義を宣伝」の「危険思想」とのレッテルを貼られたが、逆に大逆事件を契機に機関誌を外部に販売し、中江兆民から幸徳秋水を明治の陽明学の系譜とする一方、井上らの陽明学を陽明学の本道をはずれた「官学」「御用学問」と非難して、時代の逆流に抗して在野で活動が続けた。(荻生茂博『近代・アジア・陽明学』ぺりかん社、2008年、406頁)

儒道大会

(1935年4月28日)

- 思ふに人類の幸福は、民族の協和に因りて進められ、民族の協和は、文化の共通に依りて齎さる。我国近世文運の発達は、国力の進展と相俟ちて、我国をして世界三強国の一たらしめ東亜の盟主たるの名と実とを与えたり。然れども久しく欧米物質文明の模倣に汲々として未だ東洋固有の精神文化の精華を発揮するに至らず。時運一変し、近時澎湃として起れる東洋精神復歸の叫に应じて**儒道復興**の声も亦漸く盛んと為り、茲に湯島聖堂の再建を機として儒道大会開催せられ、内地の学者は勿論朝鮮台湾の儒流代表の参列もあり、支那各地の儒林代表の来会せらるるあり、新興の満州帝国よりも代表使節の参会有るを報ずるは、此会をして独り儒道の振興に資するのみならず、以て東亜民族の団結を固くし、更に世界の文明に寄与し人類の平和を齎来するに貢献する所あらしめんとするものと信ず。(「儒道大会の記」『湯島聖堂復興記念儒道大会誌』斯文会、1936年、23-24頁、旧字体は新字体に変換)

服部宇之吉

- 世界大戦争の裡に醗酵されたる東洋研究熱は、大戦争と共に世界各地に発して、東洋研究の遂行となりました。東洋文化といへば其の根幹たるものは支那文化及其の我国に輸入せられて固有の民族精神と同化したるものを言ふことは申すまでもありません。而して該文化は儒道を根幹とすることも亦改めて言ふまでもないことであります。儒道は夙に我国に伝来し、我惟神の大道と融解し、日本精神の根柢を培養し、列聖の鴻謨を翼賛し、大化の革新、建武中興及明治維新王政復古の三大事業に参与し、夫々参与するところが少くなかった。（「儒道大会の記」『湯島聖堂復興記念儒道大会誌』斯文会、1936年、68頁、旧字体は新字体に変換）



儒道大會開幕會(一) 阪谷男爵の辭



儒道大會(二) 德川公爵の辭式



服部博士の演説記念



阪谷博士の演説記念

『湯島聖堂復興記念儒道大会誌』斯文会、1936年、口絵。



儒道大會(五)孔家代表演說



儒道大會(六)顏家代表演說



儒道大會(三)松田文相祝辭



儒道大會(四)井上博士演說

『湯島聖堂復興記念儒道大会誌』斯文会、1936年、口絵。



下退御下殿宮裁總 (一十) 典祭子孔



出退長會川德 (二十) 典祭子孔



樂 舞 (九) 典祭子孔



樂 舞 (十) 典祭子孔

『湯島聖堂復興記念儒道大会誌』斯文会、1936年、口絵。

第二十九回孔子祭典 (1935年4月30日)

- 井上哲次郎
- 今では釈奠を行ふ方法を知って居る人がなくなりましたから神道の儀式を以て之に換へてやって居ります。是れは学界の年中行事で縦ひ対支関係が何うあっても之を行ふことは変りはないのであります。(『湯島聖堂復興記念儒道大会誌』斯文会、1936年、127-128頁、旧字体は新字体に変換)

和辻哲郎(1889～1960年)

- 日本人がいかに深くシナ文化を吸収したにしても、日本人はついに前述のごときシナ的性格を帯びるには至らなかった。しかしそれにもかかわらず日本の文化は、先秦より漢唐宋に至るまでのシナ文化の粹をおのれの内に生かしているのである。シナ人はこれを理解することによってかえって現代のシナに消失している過去の高貴な文化の偉大な力を再認し得るであろう。そうして現在行き詰まっているシナ的性格の打開の道をそこに見いだすこともできるであろう。
- シナは復活しなくてはならぬ。漢や唐におけるごとき文化の偉大さを回復しなくてはならぬ。世界の文化の新しい進展にとってはシナの文化復興は必要である。(和辻哲郎『風土』(『和辻哲郎全集』第八巻、岩波書店、1989年、133-134頁))

台湾の儒教

台湾 孔子廟 江宜樺



台湾 孔子廟 孔垂長



武田泰淳(1912～1976年)

- 司馬遷が、単なる儒者であり、孔子の徒であったなら、問題は簡単である。聖者であり、師であり、わが学の祖として、真善美の絶頂へ、孔子をかつぎあげることによって、満足したにちがいない。しかし歴史家司馬遷は、あくまで孔子を、史記的世界に於ける、象徴的人間として、とりあげなければならぬ。
- 喪家の狗とは、国なき人のことである。孔子が、史記的世界に於て、暗示し、象徴したものは、国なき人であった。魯の朝廷が、斉の女樂を受け、為政者が政治を忘れた時、孔子は諷刺の歌を歌い、「とらわれず、かわらず、わが旅に、一生を送ることにしよう」と言った。わが旅に一生を送ろう、とするのは、すでに、史記的世界に在って、「本紀」を信ぜず、「世家」をたよらぬことである。固定した一つの集団としての「世家」にとどまることを、不可能と見たのである。孔子が衛を去らんとするにあたり、「鳥は木を択ぶことができるが、木はどうして鳥を択ぶことができよう」と言った。国から国へ渡り歩く、渡り鳥に、みずからたとえたのである。みずから鳥を以て任ずる文化人にとり、国とは、木にほかならない。国は自ら動いて天の道を行うことはできず、どこもかしこも乱れている。真に天の道に順う者は、鳥となって飛ばねばならぬ。(武田泰淳『司馬遷一史記の世界』講談社文芸文庫、1997年、120頁)

まとめ 循環する儒教

- 近代日本が関与した近代儒教のディスコースは東アジアに流通し続け、再び日本に環流している。東アジア共通のレガシーとしてもし儒教を捉え直すことができるのであれば、歴史化した後に、その別の可能性を考えておかなければならない。「批判儒教」や「プログレッシブ儒教」(ステファン・アングル)といった試みはその一つであろう。
- その上で、いかなる概念が再び鍛え直されなければならないのだろうか。それは「和」なのだろうか。あるいは「義」なのだろうか。「天下」や「王道」も議論に上がっている。そのなかで、弱い規範もしくはくかのよう>(マイケル・ピュエット)の規範としての「礼」には注目をしておきたい。新たな宗教戦争の時代に、この身体的な規範がどのように世界に寄与しうるのかは、案外重要な争点となり得るだろう。